

東北から世界へ
魅力ある コンパクトカー を
もっと早くお客様へ

環境報告 2024



東北をずっともっと元気に



トヨタ自動車東日本
TOYOTA MOTOR EAST JAPAN

TMEJ 

<https://www.toyota-ej.co.jp>



目 次

1. 環境保全の取り組み

環境に関する取り組みの基本方針

環境取り組み体制

2. 環境マネジメント

環境監査

3. 異常苦情未然防止活動

設備導入時の確認、点検

納入業者様と協力した納入作業の点検

環境異常の未然防止に向けた階層別教育

4. 環境負荷低減活動

環境取り組みプラン

トヨタ環境チャレンジ2050

第7次環境取り組みプラン（5カ年実行計画）

2024年の取り組み結果

CO2低減に向けた取り組み状況

VOC低減に向けた取り組み状況

廃棄物低減に向けた取り組み状況

5. 自然共生活動

宮城県 伊豆沼環境保全活動

静岡県裾野市 環境保全活動

1. 環境保全の取り組み

当社はISO14001に基づいた環境マネジメントシステム（EMS）を構築し、運用しております。2017年9月には、ISO14001新規格への対応と同時に、全拠点を統合した外部認証を取得しております。これにより全社一丸となって環境保全に取り組んでおります。また、環境負荷低減を通じて、SDGsの達成に貢献していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な開発目標(SDGs)は2015年9月に国連総会にて採択された、2030年までに人類が達成すべき17の目標と169のターゲットです



環境に関する取り組みの基本方針

当社はトヨタ自動車（株）の「トヨタ地球環境憲章」を受け「環境に関する取り組みの基本方針」を制定しております。SDGs達成への貢献、カーボンニュートラルに向けた取り組み強化など、取り巻く環境変化にあわせ2021年7月に見直し、全従業員に周知して、全社一丸となって地球環境保全に努めます。

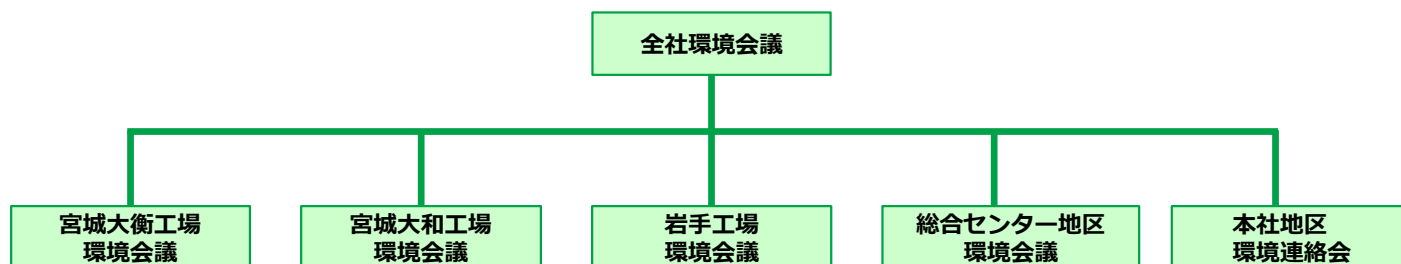
<当社の環境に関する取り組みの基本方針>

1. 環境法規制その他の要求事項を遵守するとともに環境リスクの低減により異常の未然防止に取り組みます。
2. 環境マネジメントシステムを継続的に運用して、環境保全の維持向上に努めます。
3. 自然豊かな東北と世界遺産 富士山の麓でクルマづくりができる事に感謝し、地域への貢献、自然との共生に努めます。
4. カーボンニュートラルの実現に向けてライフサイクル全体で取り組みます。
 - ・クルマの開発段階から軽量化やリサイクル性の向上に努めます。
 - ・生産工程の省エネと革新的な技術の導入、再生可能エネルギーの利用を進めます。
5. 社員一人ひとりが環境保全の意識を高め、自覚と責任を持って行動し、SDGsの達成に貢献します。



環境取り組み体制

環境部門のトップを議長とする全社環境会議と、各拠点長（工場長等）を議長とする各拠点環境会議にて、重要環境課題について対応の方向付けを行い、環境保全活動の推進を図ります。



2. 環境マネジメント

環境監査

国際標準化機構（ISO：中央事務局スイス、ジュネーブ）が定める、環境に配慮した組織、企業に与えられる国際的な環境マネジメントシステム規格「ISO14001」の認証を取得。毎年、監査を実施し維持、更新しています。

<内部監査>

環境マネジメントシステムの運用状況を確認するために、各拠点においてISOの規格に基づき環境管理活動が運用され、特に環境法令遵守、環境異常苦情未然防止活動がなされているか、内部監査員による監査を毎年実施しています。

また、内部監査員の力量向上を狙いとして、拠点間の相互監査や審査員有資格者によるOJTを実施することで会社全体のレベルアップにつなげています。

現地現物での監査



廃棄物保管状況の監査



<外部機関による審査>

外部機関による審査も毎年実施しており、1997年から認証を継続しています。2017年には3つの会社（旧関東自動車工業、旧セントラル自動車、旧トヨタ自動車東北）統合後も別々に運用していた環境マネジメントシステムを一つにまとめ、統合認証を取得し、全社一丸となった環境保全活動を推進しています。

各書類（測定結果等）審査



設備の現地確認



<ISO14001の適用範囲> ※

- ・宮城地区 本社:宮城県黒川郡大衡村中央平1番地
【自動車製造事業の中央管理機能】
- ・宮城地区 宮城大衡工場:宮城県黒川郡大衡村中央平1番地
【自動車の製造】
- ・宮城地区 宮城大和工場:宮城県黒川郡大和町松坂平5丁目1番地の1及び6丁目2,5-1,5-2,6-1,6-2
【電子制御ブレーキ,電子制御サスペンション及びアクスル等の自動車部品の製造及び自動車用エンジンの組立】
- ・岩手地区 岩手工場:岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根森山1番地6、1番地2
【自動車の製造】
- ・東富士地区 東富士総合センター:静岡県裾野市御宿1501番地
【自動車の企画,開発,設計及び製造技術】
- ・東富士地区 須山工場:静岡県裾野市須山2810-1
【自動車用プレス金型の製造】

※サイトに常駐する請負業者およびサイトに在る当社関連会社・団体は原則として適用範囲に含めない。
この場合管理担当部署がEMSに関連した活動を管理し、必要なコミュニケーションを図る。
原則と異なる運用をする場合は、各サイトでそれを定め、組織図で明確にする。

3. 異常苦情未然防止活動



設備導入時の確認、点検

新型車の生産に伴い、新たに導入した設備の点検や作業確認を設備計画部署、設備運転部署及び工場環境管理部署が一体となって実施しています。日常管理項目や緊急時の対応手順を明確にし、環境リスクに対する未然防止を図っています。こうした取り組みは新型車の量産開始以降も継続的に実施しています。

新型車の生産開始に合わせて導入した足回り部品の
切削、研磨、洗浄設備



工場長による新設設備の点検（洗浄油の漏洩防止）



納入業者様と協力した納入作業の点検

工場にはガソリン等の燃料をはじめ、塗料や薬品などが納入されます。こうした納入作業が、安全、確実に行われる様に、納入業者様と協力して、作業の点検や万一の漏洩を想定した訓練を実施しています。

防火面、作業安全面を含めた納入作業の点検



実際に水を流しながら漏洩を防止する訓練

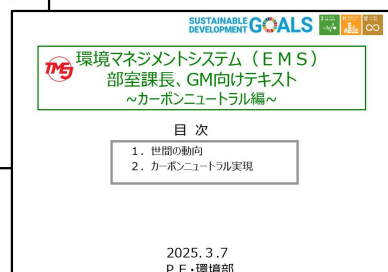
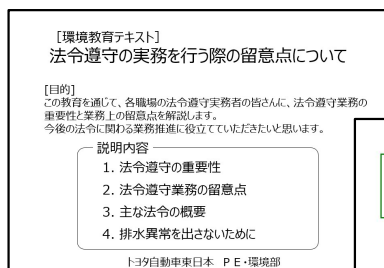
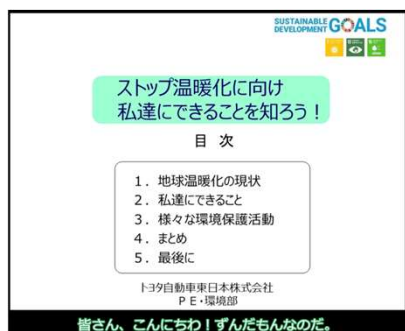


環境異常の未然防止に向けた階層別教育

全従業員に対し環境活動へ親しみをもちてもらう施策として、キャラクターを用いた掛け合い動画を活用することで、分かりやすく環境意識向上につながる教育を実施しています。
また、当社子会社に対しても法令やCNに関する教育資料を展開し、グループ全体としてのレベルアップにつなげています。

全従業員向けの親しみやすく、分かりやすい教育資料の展開
(東北復興のイメージキャラクターを用いた解説動画)

子会社向け環境教育資料



4. 環境負荷低減活動

環境取り組みプラン

当社はトヨタグループの一員として、トヨタ自動車（株）が2015年10月に発表した「トヨタ環境チャレンジ2050」の実現に向けて取り組んでおります。また、2050年までの長期的な取り組みを着実に推進するために、5カ年ごとの中期環境取り組み計画＝環境取り組みプランを策定し、計画的に実行しております。

トヨタ環境チャレンジ2050

気候変動、水不足、資源枯渇、生物多様性の損失といった地球環境の問題に対し、クルマの持つマイナス要因を限りなくゼロに近づけるとともに、社会にプラスをもたらす事を目指して、トヨタ（グループ）は6つのチャレンジに向けた取り組みを進めています。

トヨタ環境チャレンジ2050 「ゼロの世界にとどまらない“プラスの世界”を目指して」 ～Challenge to ZERO & Beyond～

ゼロへのチャレンジ	 新車CO ₂ ゼロチャレンジ	次世代車の開発・普及
	 ライフサイクルCO ₂ ゼロチャレンジ	環境配慮設計 ～素材から廃棄まで～
	 工場CO ₂ ゼロチャレンジ	徹底した低CO ₂ 革新技術 再エネ導入・水素利用
プラスを目指すチャレンジ	 水環境インパクト最小化チャレンジ	徹底的に使用を少なく 徹底的にきれいに
	 循環型社会・システム構築チャレンジ	資源循環システム グローバル展開
	 人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ	オールトヨタ統一活動を 社会・世界とつなぐ

第7次環境取り組みプラン（5カ年実行計画）

トヨタ環境チャレンジ2050の実現を具現化するための中期計画として、5カ年ごとに「環境取り組みプラン」を策定し、環境負荷低減に取り組んでいます。

2021年度より新たな5カ年計画として、「第7次環境取り組みプラン」を策定しました。

法令遵守の徹底、環境マネジメントの強化を従来から継続するとともに、トヨタ環境チャレンジ2050を踏まえた取り組みを新たに加え、カーボンニュートラルの実現やSDGsへの貢献を通して、地球環境保全に努めます。

区 分	推進項目	主な取り組み内容・目標
トヨタ 環境チャレンジ2050を 踏まえた項目	CO ₂ 排出量低減 	日常の改善と革新的技術の導入 再生可能エネルギー導入 目標：2013年度比▲30%
	水使用量低減 	日常の節水活動推進 目標：2018年度実績以下
	自然共生活動 	地域の皆様と連携した自然保護活動への参加
従来からの継続項目	ボディ塗装VOC低減	塗装工程における塗料、シンナー使用量の低減 目標：2018年度実績以下
	バンパー塗装VOC低減	
	廃棄物排出量低減	塗装工程の廃棄塗料低減等、発生量低減活動推進 資源の有効利用促進（リサイクル、リユース） 目標：2018年度実績以下

※VOC（Volatile Organic Compounds）
揮発性有機化合物

4. 環境負荷低減活動



2024年の取り組み結果

2024年も改善活動の推進により、全項目で目標を達成する事ができました。

推進項目	目標達成状況 (2024年)	主な取り組み内容						
CO ₂ 排出量 (総量)	目標 実績 [千 t -CO₂] <table><tr><th>項目</th><th>値</th></tr><tr><td>目標</td><td>83</td></tr><tr><td>実績</td><td>74</td></tr></table>	項目	値	目標	83	実績	74	・省エネ活動の推進（機器高効率化、工ア低減活動等） ・革新技術の導入（新規技術、工程集約等） ・再エネ電力の購入
項目	値							
目標	83							
実績	74							
廃棄物排出量 (生産 1 台当り)	[k g /台] <table><tr><th>項目</th><th>値</th></tr><tr><td>目標</td><td>6.8</td></tr><tr><td>実績</td><td>6.2</td></tr></table>	項目	値	目標	6.8	実績	6.2	・排水処理、塗装工程で発生する汚泥の脱水化 ・油脂等の再資源化、有価物化
項目	値							
目標	6.8							
実績	6.2							
ボディー塗装 VOC (塗装面積当たり)	[g/m] <table><tr><th>項目</th><th>値</th></tr><tr><td>目標</td><td>15.1</td></tr><tr><td>実績</td><td>14.3</td></tr></table>	項目	値	目標	15.1	実績	14.3	・塗装の塗着効率向上 ・洗浄シンナーの使用量低減・回収率向上 ※VOC（Volatile Organic Compounds） 揮発性有機化合物
項目	値							
目標	15.1							
実績	14.3							
バンパー塗装 VOC (塗装面積当たり)	[g/m] <table><tr><th>項目</th><th>値</th></tr><tr><td>目標</td><td>334</td></tr><tr><td>実績</td><td>226</td></tr></table>	項目	値	目標	334	実績	226	
項目	値							
目標	334							
実績	226							
水使用量 (生産 1 台当り)	[m/台] <table><tr><th>項目</th><th>値</th></tr><tr><td>目標</td><td>1.50</td></tr><tr><td>実績</td><td>1.44</td></tr></table>	項目	値	目標	1.50	実績	1.44	・節水活動の推進 ・槽清掃周期の適正化による工水の低減
項目	値							
目標	1.50							
実績	1.44							

4. 環境負荷低減活動

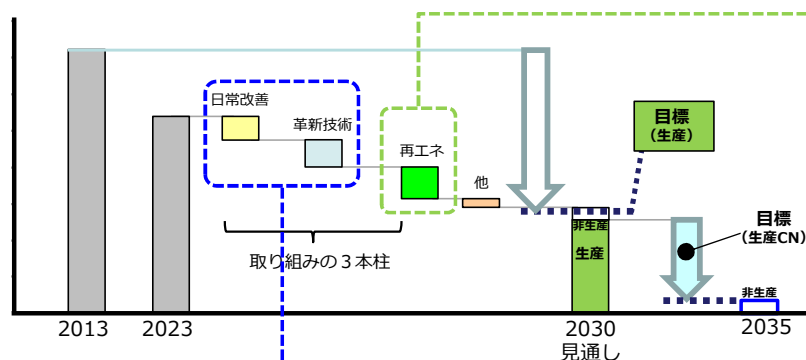


CO2低減に向けた取り組み状況

<CN達成シナリオの立案>

日常改善・革新技術・再エネ導入の3本柱で推進

[CN達成シナリオ]



使うエネルギーのミニム化に向け
中長期計画を立て推進

太陽光
発電拡大

岩手県水力
供給開始



[参考]

現時点で岩手工場へ水力由来の
再エネを導入

将来的に電力の100%
CO2フリー化を目指す

<金ヶ崎レジリエンスグリッド>

地域防災性向上とCNの両立を目的に構築中

太陽光やコジェネ、蓄電池を組み合わせ、エネルギーマネジメントシステムでムダなくエネルギーを使うことでCNを推進するとともに、非常時には地域防災に協力する体制を構築しています



効率的にエネルギーを作る

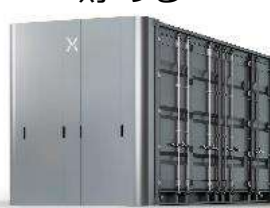


太陽光発電3,800KWh



コ・ジェネ(既設)

貯める



蓄電池2,700KWh

効率的に利用する



エネルギーマネジメントシステム

4. 環境負荷低減活動



CO2低減に向けた取り組み状況

<日常での改善>

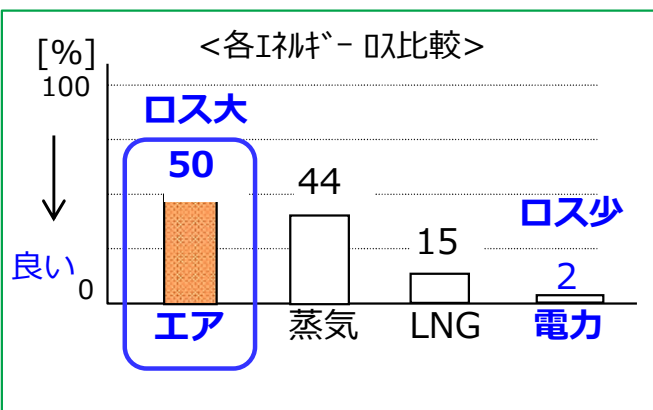
エアブロー電動化によるCO2排出量低減

【着眼点】

エアは他のエネルギーと比較しロスが大きい

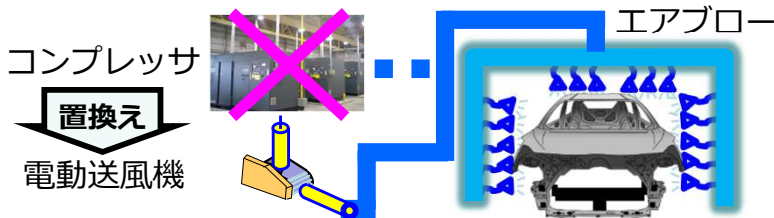
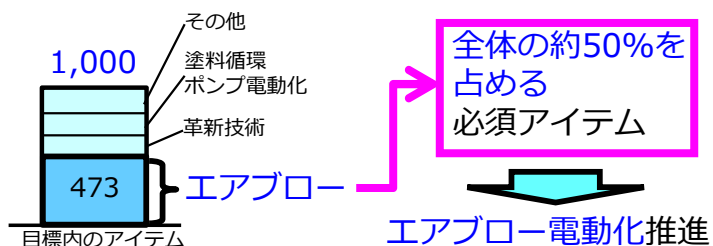


エアコンプレッサを順次停止、電動化



【改善の進め方】

低減量：1,000t-CO₂/年を目標に設定



<日常での改善>

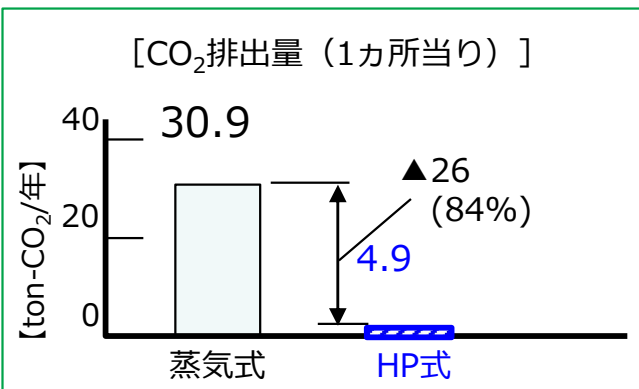
蒸気レスシャッター導入によるCO2排出量低減

【着眼点】

エアの次にエネルギーロスの大きい蒸気を電化したい

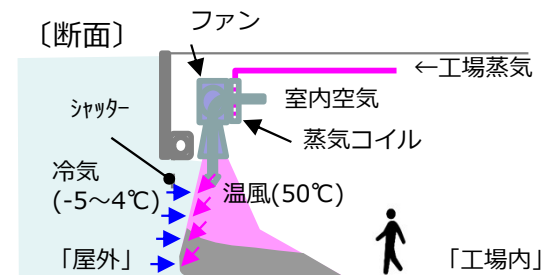


蒸気使用のエアシャッターを順次電動化



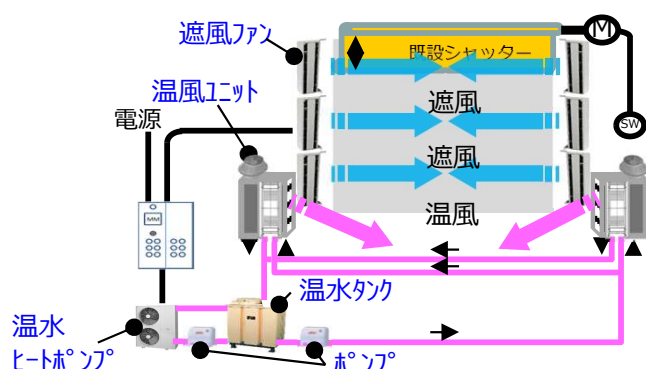
【既存のエアシャッター】

冬期、冷たい外気侵入を防ぐ目的で設置



【蒸気レスエアシャッター】

電気を動力とした温水ヒートポンプに更新



4. 環境負荷低減活動



VOC低減に向けた取り組み状況

塗料吹付ガンの変更によるクリア塗料使用量の低減

<改善前>

- ・従来、塗料吹付ガンは、高電圧電源を使用
- ・電気ショート防止のため、塗装面と吹付ガンの距離は300mm確保し塗料の吐出量を設定



<改善後>

- ・電圧、電流可変タイプのガンに変更。
- ・電圧の低下が可能となり、塗装面とガンの距離を200mmまで近接させる事が可能
- ・距離短縮により塗着効率が向上するため、塗料吐出量を約30%低減



廃棄物低減に向けた取り組み状況

加工機のクーラント液 売却による廃棄量低減

<改善前>

- ・加工機のクーラント液は定期清掃後、産業廃棄物処分業者へ処分を委託

クーラント抜き取り



一定量になるまで保管



産廃業者で他社廃液と混合し、セメント原料の希釈水として再利用



<改善後>

- ・製鉄原料として、金属スクラップ業者へ売却
➡ 金属切粉の成型時に活用することができる

クーラント抜き取り



一定量になるまで保管



鉄としてリサイクル



ブリケット
圧縮・成形

圧縮・成型時にクーラント添加



切粉
クーラント液

5. 自然共生活動



宮城県 伊豆沼環境保全活動

東北に拠点を置く企業として、(公財)伊豆沼・内沼環境保全財団様のご協力により、湿地の保存に関する国際条約である“ラムサール条約”に認定されている『伊豆沼』の環境保全活動を継続的に行っています。

ブラックバス（外来種）の駆除活動

6月はブラックバス（外来種）駆除を18名で実施しました。

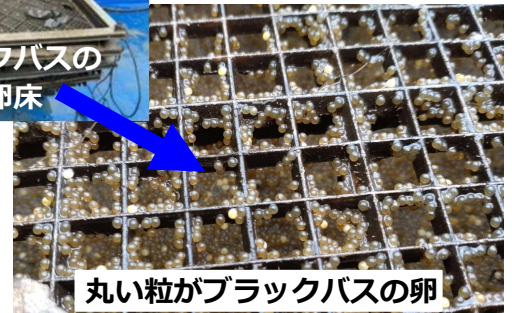


網でブラックバスの稚魚を駆除



ブラックバスの人工産卵床

湖内に設置された150個の人工産卵床を回収



丸い粒がブラックバスの卵

沼岸保護を中心とした諸活動

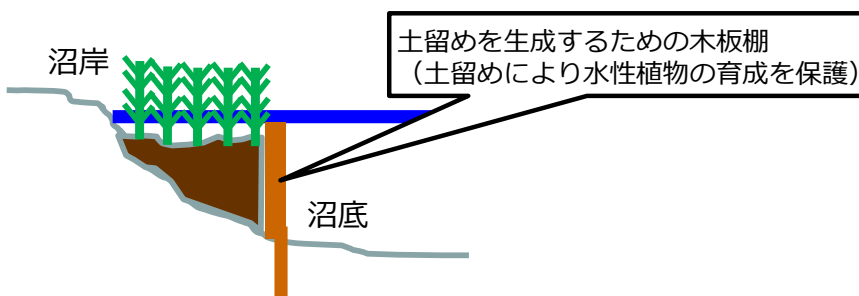
9月～11月で計3回の活動36名が参加し、沼岸保護活動（板塀製作・設置）を実施しました。



板塀製作



沼内に設置した板塀



5. 自然共生活動



静岡県裾野市 環境保全活動

東富士総合センターは裾野市在住の企業として、市内在住の企業と共に、裾野市環境保全活動に参画しています。

裾野市パノラマロード コスモス・菜の花の種まき参加

コスモス種まきでは49名が参加しました。



コスモス



種まきの様子



みんなで筋ほり

アマゴの放流（狩野川水系水質保全協議会 裾野・長泉支部）

富岡幼稚園児44名と一緒にアマゴの放流に参加しました。

裾野市内にある大柄沢川



アマゴ



園児達の放流をサポート



狩野川水系協議会「河川清掃」（6月環境月間での活動）

黄瀬川「五竜の滝」周辺清掃

裾野市内協力企業 計14社131名

当社参加者11名

五竜の滝



ごみの回収活動



トヨタ自動車東日本株式会社 PE・環境部

〒981-3609 宮城県黒川郡大衡村中央平1番地

☎022-765-6000（大代表）

発行 2025年6月